

平成30年度

中学生の広島市平和記念式典への派遣事業感想文集



藤 枝 市

平成30年 広島市平和記念式典派遣中学生

No.	学校名	氏名
1	藤枝中学校	平口 拡(ひらぐち ひろむ)
2	西益津中学校	田中 清磨(たなか せいま)
3	青島中学校	秋山 ゆい(あきやま ゆい)
4	葉梨中学校	村上 諒(むらかみ りょう)
5	高洲中学校	廣瀬 鈴(ひろせ れい)
6	大洲中学校	増田 朱里(ますだ あかり)
7	瀬戸谷中学校	遠藤 倭輝(えんどう こうき)
8	広幡中学校	山内 弥佳(やまうち みか)
9	青島北中学校	原 芽華(はら めいか)
10	岡部中学校	高野 日菜(たかの ひな)

「平和って何なのか。」と今まで考えたこともありませんでした。それは今、自分がまさに平和の中にいるからです。何ひとつ不自由なく、まして戦争の恐怖にたたされる状況ではなく、普通に学校へ行き、友達と勉強したり、たわいもない会話をしたり、好きな部活も精一杯できているからです。73年前のあの日、一体何が起こったのか。一瞬にして美しい町並を壊してしまった人類史上初の原子爆弾が投下され、何万もの人々の人生、生活がすべて一瞬にして失われました。私たちと同じ子どもたちや数えきれない人々の夢や希望が無残にも失われました。今回広島に行き「戦争とは何か」について、どれだけ悲惨なものであり、そして現実起きてしまったことを間近で学び、その様を見ることで心が痛くなりました。進む被爆者の高齢化、年を追うごとに戦争を経験した人は減少する現実が大きな問題としてあります。だからこそ、僕たち若い世代が今後伝えていかなければならない、忘れてはならない、絶対に二度とあってはならないと心の底から思いました。唯一の被爆国だからこそ同世代、世界全体へ、核のない世界を目指して人類にとって平和が一番大切であることを伝え続けなくてはなりません。自分自身も平和について真剣に考え、現実と向き合い、正しいことが正しいと言える大人になりたいと思いました。

僕は、広島平和記念式典に出席をしました。記念式典には広い会場に子どもから、お年寄りまで多くの人々が参加していました。また、外国人も多く、どこの国でも、平和を願っていると思いました。

僕は、広島市長が語った「平和宣言」の中で、「核兵器の廃絶を人類共通の価値観にしていかなければなりません。」と言っていた言葉が、とても印象に残りました。広島では原爆投下で多くの人々が亡くなり、今も苦しんでいる人々がいます。そして、現在、世界には多くの核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされています。核兵器がなくなり、平和な世界になってほしいと思いました。

また、前日に平和記念資料館へ行きました。2年前にも、家族で行きましたが、被爆して亡くなった人の写真や資料を見て、改めて原爆の恐ろしさを実感しました。

僕は、平和記念式典に出席をしたり、平和記念資料館を見たりして、核兵器の廃絶や世界が平和になることを願います。僕が今できることは、戦争や今の世界情勢などを勉強することだと思います。

私は、8月6日に広島平和記念公園で行われた広島平和記念式典に参加しました。私は式典に参加して、平和ということ、戦争のない今の日本が今の時代からしたら当たり前なこと、73年前の日本では特別なことで、当時の人々が望んでいた世界と実感することができました。

世界で唯一の被爆国、日本。実際に原爆を体験した人はだんだん少なくなってきました。だからこそ、私たち若い世代が進んで原爆のこと、戦争のことを学び、次の世代、そのまた次の世代へと、戦争や核兵器の恐ろしさを伝え、日本だけでなく、世界も日本のような戦争や核兵器と遠く離れ、平和な世界にしていきたいです。悲しい歴史があるから、平和で豊かな歴史が生まれます。そのことを心に残しておきたいです。

僕は先日行った広島で、改めて原爆がとてもひどいものであったことが分かりました。原爆ドームの壁は黒く焼け焦げ、多くのところが砕けていたり、窓ガラスがほぼ割れてしまっていたりしました。また、平和記念資料館では、原爆投下後の広島ではとても大きなきのこ雲が発生したり、黒い雨が降り、その雨を多くの人が浴びてしまい、死者が続出してしまったことなどを知りました。この他にも原爆によって黒く焼けてしまった瓶、衣服、三輪車を見ました。僕は、これらのことを見て、原爆はたったの一投でこれほどの被害を及ぼし、多くの人々を苦しめる、恐ろしいものだと思感することができました。

平和記念式典では、どの方が話した言葉の中にも「平和」や、「繰り返してはいけない」というものが多くありました。それほど核兵器は怖いもので、非核を強く願っていることが分かりました。実際、早急な非核化は難しいことだと思います。一昨年、オバマ前大統領が広島に来られました。僕は嬉しく思いました。現在、核兵器を所有している全ての国の大統領や首相の方々に広島に来ていただき、過去の惨状を肌で感じていただければ非核化の一步につながるのではないかと思います。

今回、原爆の怖さや平和の尊さを実感できる、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

今から73年前の8月6日。雲の下にはいつものように朝を迎えた人々。午前8時15分、ヒロシマに落とされた一発の眩い光。その光が罪のない人を一瞬にして消してしまったのです。

熱い、痛いと呼ぶ声。水をくださいと一心に助けを求める声。長さ約3メートル、直径約0.7メートル、重さ約4トンの爆弾が人々の運命を変えたのです。

私が初めて原爆ドームを見たとき、当時の悲鳴が今にも聞こえてくるような気がしました。73年前の人々の痛み、苦しさ。悲惨でとても恐ろしい出来事だったことがよくわかります。

私は唯一の被爆国の一人として、街は焼け、たくさんの命が奪われたこの出来事を決して忘れてはいけなかったと思います。

戦後73年間、日本は一度たりと戦争に加わっていません。私たちは尊い多くの命の上に、今の平和を手にすることができたのです。そして、この平和な世界をこれからもずっと続くようにしていかなければなりません。夢と希望の未来を作り上げるために、私たち若者が「あの日」を次の世代に語り継いでいきたいと強く心に誓います。

私は今まで、原爆や戦争のことについてあまり考えたことがありませんでした。広島に行かせていただいて原爆がとても恐ろしいもので、こんな恐ろしいことが本当にあったということを知りました。平和記念式典の最後に聞いた広島県知事の核抑止の話がとても印象に残っています。国と国が互いに核で脅しあって戦争のない社会にしているということを知りました。私はこの話を聞いて、こんな平和はとても危うく、いつ崩れてしまってもおかしくないと思いました。他の人を信頼できれば脅しあう必要はありません。信頼し合い核兵器をなくして戦争のない社会になっているのなら、本当に幸せで平和な世界になると思います。そのような平和な世界になってほしいです。私は“信頼する”ことがとても大切だと思いました。家族や友達などまずは身近な人との信頼、協力を大切にして、少しずつでも広めていきたいです。

一発の原子爆弾で、罪のない多くの命が奪われました。皆さんは73年前のあの出来事をどのように考えていますか。僕は、今回の派遣事業を通して戦争の悲惨さを学び、考え方が大きく変わりました。

今までも戦争は恐ろしく、あってはならないと思っていました。しかし平和記念資料館を見学し、思っていた以上に被害が大きく原爆に対する恐怖を持ちました。原爆について正しく知り、被爆された方々の身になり、悲しみを考え、後世に伝えていくことが戦争をなくすことにつながると思いました。

僕たち世代は、「戦争」ということに無関心なところがあると思います。一人ひとりが戦争について考え直すことができれば、このような過ちを犯すことはなくなると思います。この2日間で感じたことに目を向けて、これから平和な世界を作っていくために、強い意志を持ち、自分たち世代が努めていかなければならないと思います。

私は、今回資料館や被爆地を見学したり、式典に参加したりし、たくさん学んだことや感じたことがあります。

まず、核兵器の恐ろしさです。あの日、一瞬にして焼野原になってしまった広島に投下された原子爆弾の爪痕は、資料館にあった当時の人の衣服や持ち物や写真などから、また、実際に見た原爆ドームから感じることができました。全てが悲惨で痛々しく、核兵器の恐ろしさを物語っていました。

次に、たくさんの方の「絶対に繰り返さない」という強い思いです。街中でポスターを持ち、通行人に訴えかけていた人、ボランティアで資料館の案内をしていた方々、そして式典に参加していた人全員など、2日間でたくさんの方からの「繰り返さない」という強い思いを感じることができました。

今回、私は、核兵器のない平和な社会を実現することが、とても重要だと分かりました。

これをたくさんの方々に伝え、実現できるよう、精一杯努力していきたいです。

1945年8月6日8時15分、広島に原子爆弾が落とされました。広島の人々は想像もつかなかったでしょう。目もくらむ光、100万度を超える火、そして爆風。一瞬の出来事で周りが炎の海になってしまふことを・・・。

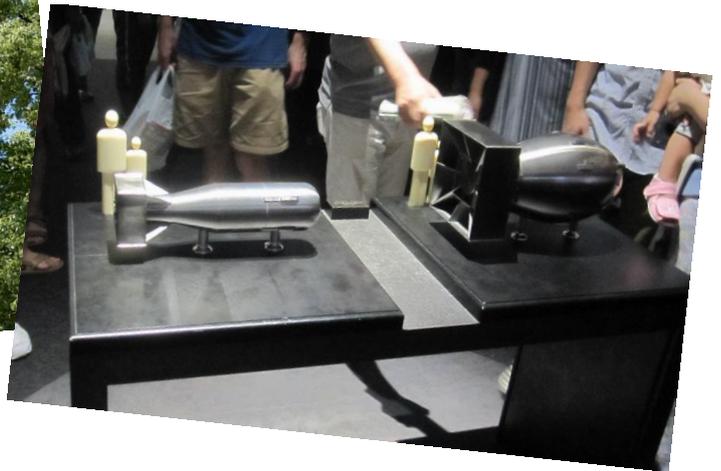
最初は自分には関係ないことと特に気にも留めていませんでした。ですが現地に行き、たくさんの人々が亡くなったことを知り、私の心が締め付けられ苦しくなりました。たった一発の原子爆弾で自然や生き物にたいへん大きな影響をもたらしてしまうものということを知りました。

今現在、核兵器が1万4500発もあることを知っていますか。特にアメリカ、ロシアでは6000発以上もあります。核兵器が今日使われたら何百万人が死傷し、放射線物質によりたくさんの人が苦しむことになるでしょう。悲惨な惨劇を繰り返さないためにも、核兵器を無くさなければなりません。平和で安心な毎日を過ごしていけるような世界になっていくことを願うばかりです。

眩しい閃光と爆音と共に吹き付ける熱風を浴びた。一瞬にして炭になった多くの人々。瓦礫の街。子供の泣き声。1945年8月6日、8時15分から数分後の出来事です。73年後、惨劇が起きた同じ場所で、私は黙祷をし、自分のできる限りの想像力で追体験をした。大切な家族や友達、大好きな食べ物、よく遊んでいた公園。それらが全て無くなってしまふ。私達の国で起こったのです。皆さんは想像できますか？自由に学べる事、やりがいを持って働く事、自分の好きな物を食べる事、家族で安心してその日にあった事を語り合う事。それが出来ている今、私達が平和のために心がけることは、他者の多様な価値観を受け入れ、今の平和に感謝し、一人ひとりが穏やかに他者との関わりを大切にしていくこと。私達にできる平和への小さな第一歩だと私は強く思います。小さく思えるこの一歩は、世界の一人ひとりが心がけることで、戦争をこの世から無くす平和への大きな道になると信じています。



平和記念公園の「原爆の子の像」



原爆の模型

平成30年度中学生の広島市平和記念式典への派遣事業感想文集

8月15日 追悼式典で朗読

発行：平成30年9月

静岡県藤枝市岡出山1丁目11-1

藤枝市総務部総務課